

同和問題（道徳）学習指導案

3年C組 男子18名 女子19名 計37名

指導者 仁 木 真 之

1 主 題 誇りうる生き方を求めて

2 主題設定と理由

3年生もう既に半ばを過ぎた。今までは比較的のんびりと過ごしてきた生徒にも進路選択に関わる、焦りにも似た気持ちが表れつつある。卒業するまでには胸張って自分の故郷を名乗ることのできる生き方をつかみとって欲しいとの願いから生まれた部落問題学習であった。1学期、丸岡さんの生き方に触れる中から自分たちの思いを語ることができるようになり、友の叫びにも似た思いを知る中から、部落問題学習に取り組む「苦しさ」と「喜び」を掴みつつある。

多くの授業を通して生徒たちはやっと重い口を開き本音を語り始めた。対象地区の生徒にとってはつらくやるせない思いであり、地区外の生徒にとっては自分自身の中にひそむ差別心と向き合わねばならないことが多い。誰もがいちばん語りたくないことであった。しかし、そこを通り抜けることなしには解放に結び付く部落問題学習は成立しない。

生徒と共に昨年度より取り組んできた185名全員が参加する全体学習は生徒や私自身の部落問題に対する取り組みの姿勢と意識を大きく変えてきた。3年生になり全体学習の場で自分の差別心を涙を流しながら語る生徒がいた。絶句しながら部落に生まれた苦しさややるせなさをぶつける生徒がでてきた。生徒を前にして自分をありのままに語る教師の姿があった。そんな中から「仲間」という意識が芽生え、信頼、連帯することのすばらしさを実感として掴みつつある。

本学級において、初めて涙を流しながら自分の思いを語ったのは地区外の生徒である。十分に見えていなかった差別が本音を語るところから見えるようになり、「差別などしていない。」という気持ちの中にひそむ差別心に気がつくようになってきた。表面を見ていた段階から一歩進んで、また新しいスタートラインに立ったところである。

まだまだ不十分なところも多い。対象地区の生徒の思いもすべてが同じではなく、差別に対するとらえ方や憤り、差別解消に向けての熱意という根本的な点においても違いがみられる。逃げている生徒もいれば、人ごとのようにとらえている生徒もいる。本音を語ることによって初めてそれらの違いも見えてきた。一歩進んだとはいえまだまだ取り組みの甘さがある。全ての生徒と共に差別解消に立ち上がっていきたい。板野を離れたときも堂々と胸張って自分の故郷を名乗り、仲間との連帯の中から差別解消に向けて力強く歩む生徒であって欲しい。そんな願いを込めての日々の実践である。

「水平社宣言」、それに続く西口敏夫先生の「水平社宣言讃歌」を学ぶことは単に文字を追うことではない。宣言に込められた願いをつかみ、思いを自分のものとし、差別解消に向けての明るい

展望をもち、力強く生き抜いていく力をつけようとするのである。また同時に「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と結ぶ宣言は、広く基本的人権・民主主義の確立という点からも全ての生徒に考えさせる必要がある。進学し、また社会に巣立とうとしている今こそ水平社宣言に込められた思いや願いを自らの生き方として欲しいと願い本主題を設定した。

3 ねらい

仲間との連帯の中で真実を見据え、いかなる環境の中になっても堂々と胸を張って生き、くじけることなく差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。

4 視 点 集団と連帯

5 指導計画

- (1) 常時指導 学年通信を通じて友の思いを知り、喜びや苦しみを共有していこうという態度を育て、係活動を通して連帯していくことの大切さをつかませる。
- (2) 関連的指導（道徳）「阿波のシルク女工とその詩」
女工の厳しい生活を通して生きることを意味を考えさせる。
- (3) 核心的指導 第一次 「水平社宣言」……………2時間
第二次 「水平社宣言讃歌」……………4時間（本時3／4）
- (4) 発展としての関連指導（特活）「進路を考える」……………1時間
就職、進学における問題点について考えさせる。
- (5) 常時指導（発展） 全ての生活の場における仲間意識の高揚をはかる。

6 本時指導

(1) 目 標

水平社宣言讃歌にうたわれた思いや願いを掴み、差別解消に向けての自らの生き方を考えさせる。

(2) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 水平社宣言讃歌を読んで感じたことを発表する。	○ 苦しい差別を背負いながらも強く生き抜いた力に目を向けさせる。 ・ 水平社宣言の根本においてその宣言の持つ意味について考えさせる。
2 差別解消に向けてどのような生き方をしていきたいか考える。	○ 自分にとって部落問題学習は何なのか、どう関わって生きるのかをを考えさせる。

授業記録

T：今まで水平社宣言を中心に勉強してきました。今日はその一つのまとめにしたいと考えています。まず、初めてこの水平社宣言を読んで一番印象に残ったところについて話してください。

S：……不明……少し考えてしまいました。私たちは今部落問題学習をしていますけど、本当に人に言える立場でないように思うのです。気付かないということで差別をしているかも知れないし、差別しているかも知れないから人前で堂々といえないというか…。

T：堂々とい得る立場でないというのはIさん自身のことですか。もう一度言ってくれますか。

S：自分でしたこと無いと思っていても気付かないところで差別していると思うからです。だから…。

T：はい。ちょっと今の考えよってください自分の気付かんところで差別しと一かもわからんから、なんかこう大きな声で言うことに抵抗がある。

S：私の心に残ったのは「人の世に熱あれ、人間に光あれ」というところで、この問題については、いろいろ言いたいこととか考えトルコとあると思うけど、それをみんなまとめて、最後の目標というか、言いたいことがこの言葉の中にあると思います。私にとっては、差別をやってる人はすごく冷たい感じがして、許せないっていうのは、その宣言で言う熱だと思います。その宣言の文では、その熱だけがその差別する世の中を変えて、差別がなくなって初めて一人一人幸せが訪れると思います。

T：熱について考えを言ってくれたのですが、この「光」というのはOさん自身はどのように捉えていますか。

S：幸せです。

T：はい。他に。

S：僕は宣言文の中で「我々が**被差別**であることを誇りうる時が来たのだ」という文がとても好きです。それは人に差別されたことはあっても人を差別したことはなく、苦しい差別の中で一生懸命生きてきた部落の人のほうが人間らしい生き方をしてきたということだと思います。僕も早くこのような差別をしないような人間になりたいし、差別の無い世の中になったらいいと思います。

T：そこの同じところが一番印象に残ったという人ちょっと手を挙げてみてください。はいそれじゃね。理由を言ってみてください。

S：僕がこの言葉をすきなのは、部落民、この言葉を言うために、部落民を勇気付け、それだけでなく差別はいけないんだという感じがするからです。

S : ……不明……

T : はい。他にありませんか。

S : 「差別にかかわる一切の責任を我らの責任であるときめつけ、言葉をよくせ、行いをつつしめ、まじめに働け、粗暴な集団活動はするな、と我らにのみその改善を迫ったではないか」というところで腹立ったんやけど、言葉や、言葉をよくしたり、行いをつつしんだりしても何かが変わる分けではなく、そんなんを部落の人間にだけ言って表面だけとかについて差別をなくしても自分を自分で変えてみんなが、差別している人が差別をしないようにしなければと思いました。

T : 今、Yさんが言ってくれたのは水平社宣言の讃歌のほうですね。確認してみますか、Yさん、何ページだったですか。讃歌の3ページですね。Yさんの言ったのとダブルところもでてくるけど読んでみます。

「さらに、さらに差別にかかわる一切の責任を我らの責任であるときめつけ、言葉をよくせ、行いをつつしめ、まじめに働け、粗暴な集団活動をするなと我らにのみ、その改善を迫ったではないか。」ちょっと後も続けますね。「そして己自身はさらにさらに融和的体質をつちかい、差別的思想を強めてきたではないか」そういうところですね。

はい、他にありませんか。

S : 僕は「人間はいたわるものにあらず。人間は尊重すべきものなり」というところが心に残っています。今まで僕はからだの不自由な人たちに、自分が上にいてその人たちを下に見て「かわいそうだなあ」とか同情の眼で見っていました。けどこれは間違いでいけないことだと気づかされました。

T : 他にありませんか。それじゃね、今の感想なんかを受けて全体学習を中心に二年間同和問題学習を続けてきた。それがみんなにとって何であったかそういう点を含めて今の同和問題についての自分の考えを発表してください。

S : 前の自分は部落なんて全然知らなかったし差別をしても、自分が差別をしているなんて思ってもみなかった。でも今になって心から語り明かしてくれるともを見ることによって、本当に真剣に取り組んでいる友、先生の話聞くことによって、自分の弱さ、情けなさをしったし、自分の強さもしった。そして何回にもおける学習で僕の心はずいぶん変わってきたと思う。言葉を飾るだけだった、小6、中1のころから、2、3年にかけて自分の本当の心言うことがほとんどになってきた。今でも、語ってきた言葉を言うことがあるけれど、それも少しはみんなのためになっていると自分では思う。また、今でも学習を通じて大きく変わってきたことは、自分の力でてを挙げて発表できるようになったことで、自分の心の中で、激しい善と悪との対立の中で今では80パーセ

ント善が勝てるようになってきた。後の20パーセントはちょっとした気のゆるみから手を挙げる機会を失ってしまったり、後へ後へとまわしてしまったことが勝ってしまったことである。これから80パーセントを限りなく100パーセントまで高めていきたい。

S：この同和問題学習をしてきた2年間で僕は自分で言うのも何だけど、少しは強くなったような気がします。それは余り見えるものではないし、僕の思っていることが正しいことではないかも知れないけれど、だけど、僕が一つだけ自信をもって言えることは「私は部落出身です」と言った子を見下げることなく「よくいえたなあ」と尊敬の気持ちを持って見ることができた。ほのことが自分でプラスになったことです。多分1年生のころだったら、あまり、蔭で何いつていたかも知らんし、それにあのこの部落宣言をした子を支えて助け合った子をもっと尊敬するような気になりました。それは、あの根強い差別を、飾りも建前もなしに、この言葉を一心に言うところが、一番感動したところです。

T：だいぶ緊張しとるね。はい、みんなだいぶ緊張してるようですが普通の言葉で言うてください。えーと、もう一人だれだったかな。はい、Oさん。

S：二年生のときから全体学習なんかに取り組んできたけれど、私の心に一番心に残ったのはMさんが自分のことを言おうとして泣いたことです。でも、私は泣いてはいけないと思います。泣いたら…泣いたら差別に負けたような気がします。どんな苦しいときや楽しいときがあっても差別、差別に自分から差別に立ち向かっていかなければいけないと思います。2年生のときからやってきて、差別はなくなるので、絶対になくならすので、早く終わらせることができるよう頑張りたいです。

S：以前の自分は部落出身であることを隠していたけれど、同和問題学習をやって自分が部落出身であるということができるようになった。

T：前にO君の今と同じような発言があったのですが、どんなところから自分のことを話していくことができるようになったと思いますか。

S：それは全体学習なんかで部落の子が自分のことを堂々と話ているのをきいて、自分が隠していることが恥ずかしくて、ほれで、なんか……。

T：隠しておることが恥ずかしい…。いまのOだったら高校へいっても頑張っていけるかもしれん、みんなおるけん。

S：えー僕が同和問題学習で学んだことは、みんなと協力することだと思います。今まで同和問題学習に取り組んでこれたのは、みんなと協力してできてきたからだと思います。

T：今初めて同和問題学習で初めてK君が手を挙げた。ごっつい進歩やなあと思います。後続けてください。

S：同和問題を知らなくても、ほとんど知らなくても気にならないものがあつたけど全体学習をやっていく中で、みんなの意見をいろいろ聞いて同和問題とかを詳しく知ることができました。自分は部落出身とみんなの前で堂々といっている人とか涙を流している人とか見てきて、他人のこととか余り考えなかったけど友達のこともあるし…。全体学習をやってなかったら、自分は何も知らないままで、こんなに熱心になることはなかったと思います。

S：みんなと同じことになるけど、自分でどこが変わったかよくわからんけど、なくして、絶対なくしていかなければと思うようになった。最初は自分は関係ないと思っていたけれど友達とかの意見聞いていて関係ないままでおれなくなってきた、なくしていかなければと思うようになりました。これからもその気持ちを持って頑張っていきたい。

S：僕もY君と同じで、以前に僕は差別なんかしてないと思っていたけど、今はあのとき自分が思っていたことは差別をしていたんやなあと思うようになりました。

T：ほれ、どんなこと。

S：えっ？

T：差別してないと思つたんやけど、実は差別しとつたんでないかということの中身みたいなん話できる？

S：自分がしたこと？……。ポロッと言つたことが、だから言つた後で。勉強してきてあの時言つた言葉は、差別しとつたんやなあ、と。

S：ちょっと話は変わるけど、たまに、学校で同和問題学習なんかしているからいつまでたっても差別は無くならないっていうけれど、そういうことは絶対ないと思います。中途半端な学習だったらやっぱり偏見みたいになつたりとか、植えつけることになるかも知れんけど、この学習はすればするほど絶対自分のためになってそれがまた他の人の支えになると思います。

S：私も同じ意見で、この学習をやってなかったら、自分の心の中の差別心は一生なくなるところだったと思います。

S：同和問題学習をやっている最初のころは、部落差別がまだ残っているなんて信じられなかった。実際に部落差別をしている人も見たことないし、死ぬなど、僕も実感することができませんでした。でも、全体学習をやっているうちに本当に差別で苦しんでいる人や、命を落している人がいるということを知って本当に部落問題学習を一生懸命やっていかならんと思いました。

T：緊張しとるようですね。今、部落差別はあると思いますか。

S：はい。あるとおもう。結婚差別とか……。

T：うん、そうまだまだある。今ある差別にどうかかわっていくか。はい、顔を

をこちらに向けてください。本音について少し。みんながいうてくれた中で「本音で」と言うのが多かった。実は何年か前、先生訪宅みたいなのに参加したことがあった。そこで同和問題について話し合いをする。そしたらね、その会に部落の人がおらん場合には、いわゆる本音がでてくるんです。部落の人がいたら絶対本音がでてこんの。建前ばかりでね。じゃそのときの本音っていうのは、本音がでてきよるから差別解消に向かっていつているかということ、違う。だから非常に気をつけないかん点というのは、自分が本音を言うていつきよるといのは、この本音のイヤな部分を越えようとしていうから意味があるんだということ。今年の全体学習でD組のSさんがきついことをいった。自分の家のことを言うた。家の人のことを言うというのはごっついせこい。本音だったんです。ところがそれがあっていろんな問題がでてきたのは何でだったかというたら、Sさんは本音のイヤな部分を乗り越えようとする気持ちがあったけん。それで、いけた。だからこれからみんなが高校へいって社会へいって気をつけとってほしいんは、本音で話し合いをしたら必ず進んでいくというものではない。下手したら、自分たちだけで、なあなあって慰めあいになってしまう。

T：でも一つ。みんなはこれから高校へいきます、社会にでます。いままで、何度もでてきたように、ある人の作文にありました。徳島でバスのところでおばさんと話をしていて「おまはん、どこの子」って。それ迄何ともなかったのが板野って聞いたら、そしたらとたんに態度が変わった。そういうことがある。また高校へいって「板野じゃな」ということから興味半分の同和問題のはなしになったときどういうふなことをしていくか。そういう自分に差し迫った問題も含めて、これからどんな風にこの同和問題学習で学んできたことを活かしていくか、それを発表して欲しい。

S：もし高校へいって、もし部落のことを聞かれたら「ほんなんきいどうするん？」って聞き返そうと思っています。そしてその子がわかってくれたら、自分のことを話していきたい。中学校でも全体学習の部落宣言は部落出身である私にもとても力を与えてくれました。高校ではすぐにそういうことにならないと思うけど。

S：今はこうやって板中のみんなで部落問題のために、いろいろ話し合いをしているんだけど高校に入ったりしたらやっぱりすくなくなるとおもうんです。これから先部落問題について話し合うことが少なくなると思うんです。ほなけんどもし高校に入って友達ができて……不明…

S：人はそれぞれに弱い面を持っていると思う。例えばいくら差別はしてはいけないとまじめに思っている、いざ友達が差別を受けているところにあうと、自分には関係無いように眼を反らせて通り過ぎていくかも知れないと思うんで

す。人は、自分の人生だからといって、正しく生きていこうとするだろうけど、でも、ちょっとしたきっかけによってこわれていくかもしれんし。自分が本当の正しい心で勉強してないために、自分で自分を幸せにし、周りの人をも幸せにしていけるだけの勇氣と心ができていなかったために、心の苦しい生き方をしてしまうこともあると思う。ひとはそうやって一生のうちに何度も過ちを犯してしまうし、知らずしらずのうちに、過ちを犯してしまったのもあれば知っていてわざと犯してしまうこともある。でも、心からこの学習に取り組んでいる人なら、心から友をやさしく包んであげることができるならば、一度脱線してしまった汽車も一部を修理することによってまた、今度は新しい道を力強く走ることができると思う。人が人らしく生きていけるために、自分が自分らしく生きていけるために、僕はこの学習を絶対に積極的に取組み、また努力していきたいと思っています。

S：高校になると今のように同和問題学習をしなくなると思うので、自分の考えが変わるという不安もあります。しかし、中学校のとき部落宣言をした友達のことを思うと絶対に差別をしてはいけないし、差別の根を広げるような行動はとれないと思います。宣言をした子は僕達を信頼してくれたから言えたと思います。その信頼が深まったので、その信頼を崩さないように、高校にいても崩さないようにしたと思います。高校にいても部落出身といった人の、言った友のことを思うと2年間で学んだ同和問題学習のことを忘れることなく、高校へ言っても頑張っていけそうな気がします。

S：これから高校に入って自分がどう変わるかわからないけれど、でも、私は同和問題について今のようにいえないかも知れない。だけど、中学校でみんなのいっていることを聞いてきて、高校に入って弱い人間になったら、何かみんなにもうしわけないというきがする。今までやってきた同和問題学習をむだにしないようにしていきたいと思っています。

T：はい、えーとねもう時間がないんでどうしても言いたいという人おったら手をあげてください。

S：よくわからないけれど、今の自分は周りから何か言われると実際はまず頭の中で自分をかばう言葉をさがしている。それをなんとかしたと思います。

S：もう多分これが同和問題学習の最後みたいになると思うんだけど

T：ほんなことない。

S：多分僕は意志が弱いので高校に入ったら部落差別をするようになると思うので、できるだけ今の意志を固く持って、できるだけやっていきたいです。

T：部落差別するようになると思うん？

S：うん。何か意志が弱いけん、大人になったら忘れてしまいそうな気がする…

T：時間がきたんですが、これ、あの今のYの言ったことについてもういっぺん話合いをしたいと思う。善意に解釈したら、さっきだれかが言うてくれたかな、不安じゃな、そうなるかもわからんというふうな不安という形で…。今日はちょっとこれはおきます。チャイムなったけんね。一言だけ。今までなんべんもいつてきたけれど、先生にとってみんなにとって部落問題という大きな問題について今Yが言うてくれたような、そんな気持ちは正直にいうたら、私高校へ言ったらひつとしたら差別をしてしまうことになりはせんか、あるいはIさんが言うてくれたように、ほんまは私にはそんなこと言う資格ないんでないか、というふうな気持ちっていうのはあると思うんね。だけど、さっきいうたように、この本音やね、これをやっぱり乗り越えようとしていかないかんだらうということ。もう一つは、ごくこう簡単に言うたら部落差別をするかもわからんとかなくてきたときに、ほんならさっき言うてくれたOやYをみんなは差別するんかと、そういうことになる。先生個人にとっては一番近くでは部落問題というのは常に、だれそれ、だれそれという顔が浮かんでそこがスタートになっていく。後卒業するまで、部落で生まれたものは絶対差別に負けん気持ち。地区外のものはどんなことがあっても、「友達を売る」ということがないように、いやな言葉だけでもその気持ちだけは、まだ後3ヵ月、さらに強いものにしていきたいと思います。Mさんの意見聞きたかったんですが、もういいですか。はい。終わります。